

又、伝正寺は浅野家（本家広島の浅野家）の菩提寺で、初代浅野長政（秀吉五奉行の一人）及びその子長重（分家幡州浅野家の祖）の墓がある。浅野長政は慶長十四年に隠居料として真壁五万石を受け、そのあとは第三子長重が正保二年真壁笠間で五万三千石を領し、赤穂に転封されるまで所領としたため、ここに葬られたのである。

12。真壁郡家址、真壁城址。

真壁の町から桜井の伝正寺に行く途中にある。真壁郡はもと白壁郡と称したが後、光仁天皇の御いみな白壁を

避けて真壁と改めたものである。白壁はもと白髪部で、清寧天皇（白髪大倭根子母）が皇子なきため、御自分の御名代として全国に白髪部という部民を置かれたがその一つである。真壁郡の郡家の置かれたところであるが、郡司（郡の長官）の系譜は不明であるが、真壁郡がもと新治郡から分れたところからみると、新治郡の郡司の一門によって支配されたものと思われる。因みに、常陸の国には十一郡があった。即ち多珂、久慈、那賀、香島、行方、茨城、筑波、新治、真壁、河内、信太郡であり、

